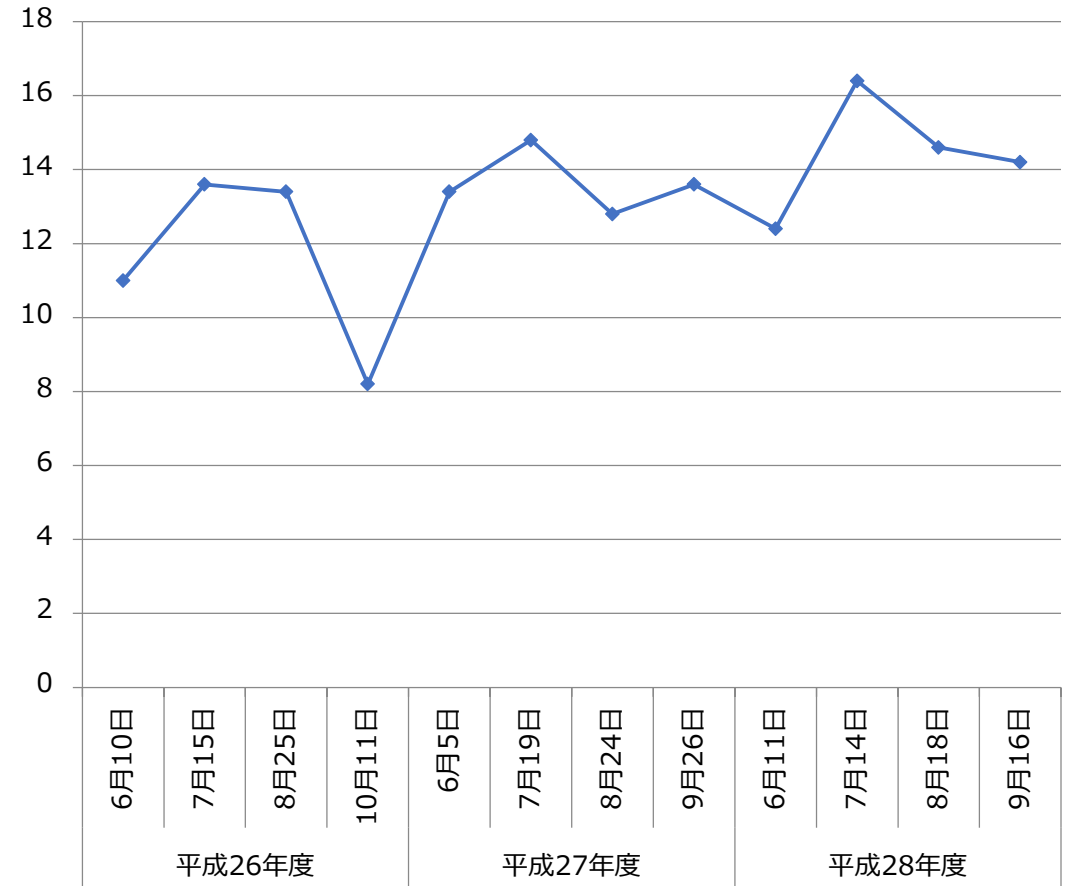
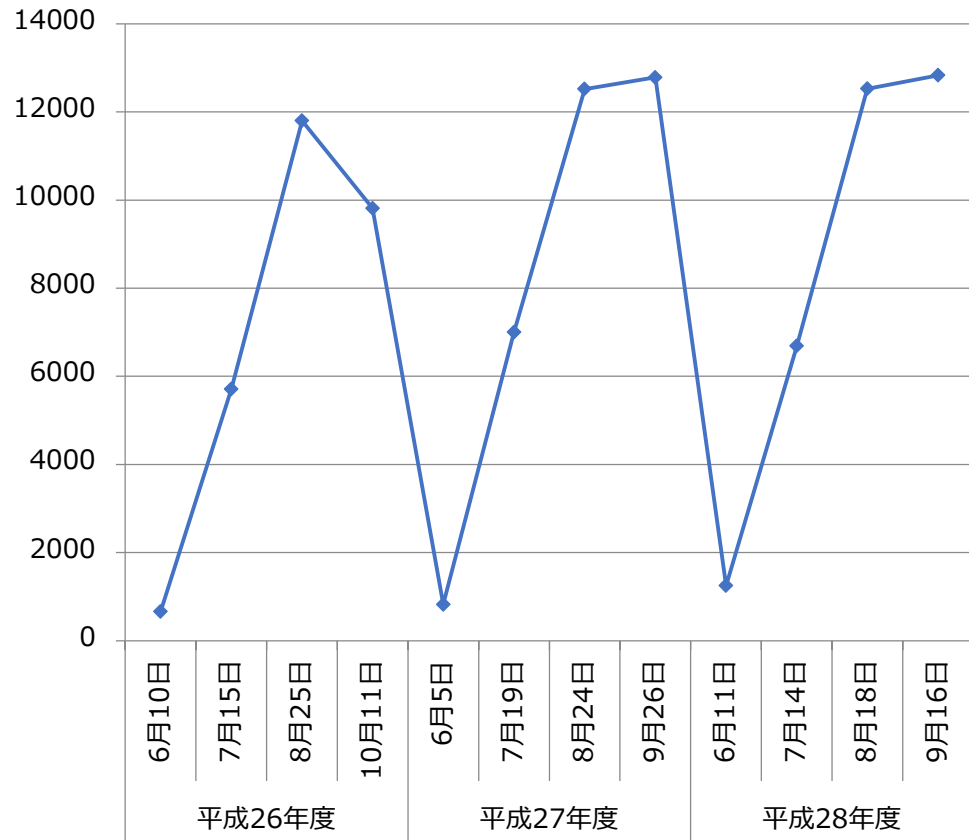


刈り取りによる草原の再生
2016年
& ノリザキヤマガラシの駆除実験

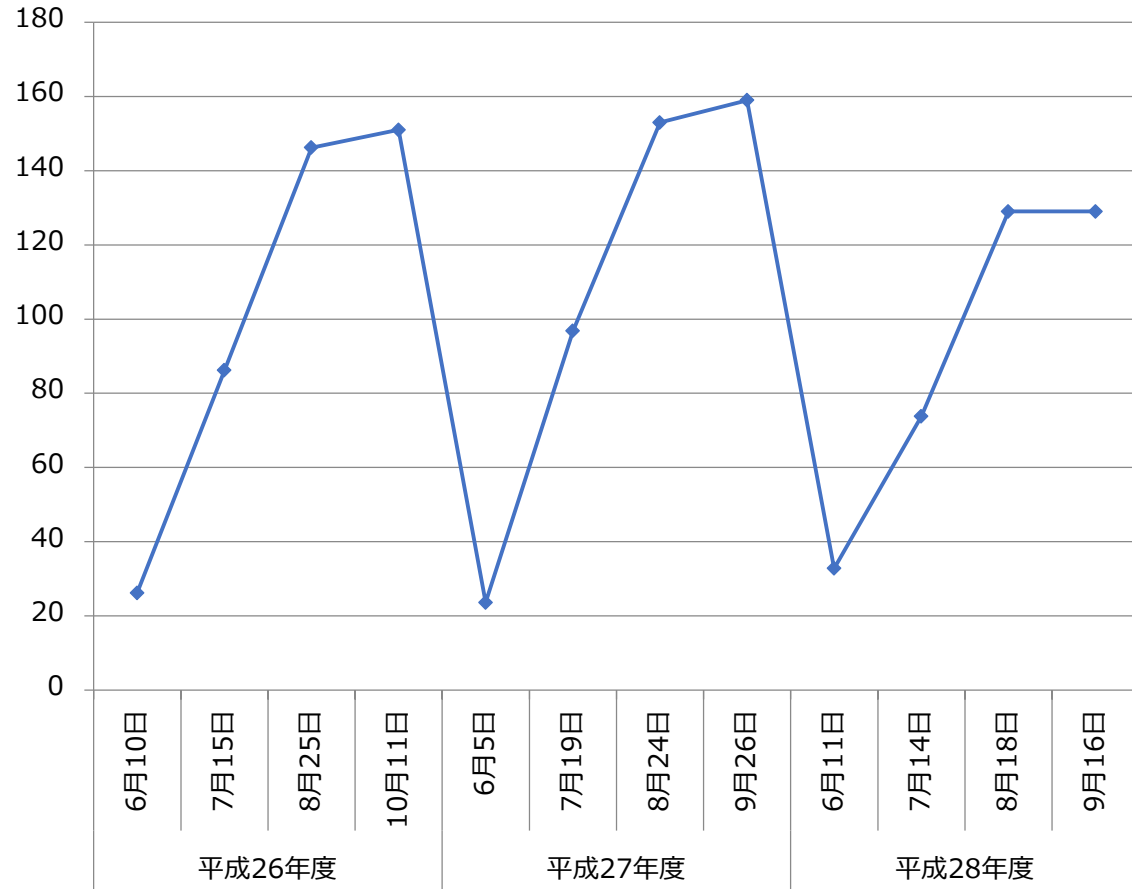
霧ヶ峰生物多様性研究会
土田勝義

ススキ定置地枠の全種のMD合計値

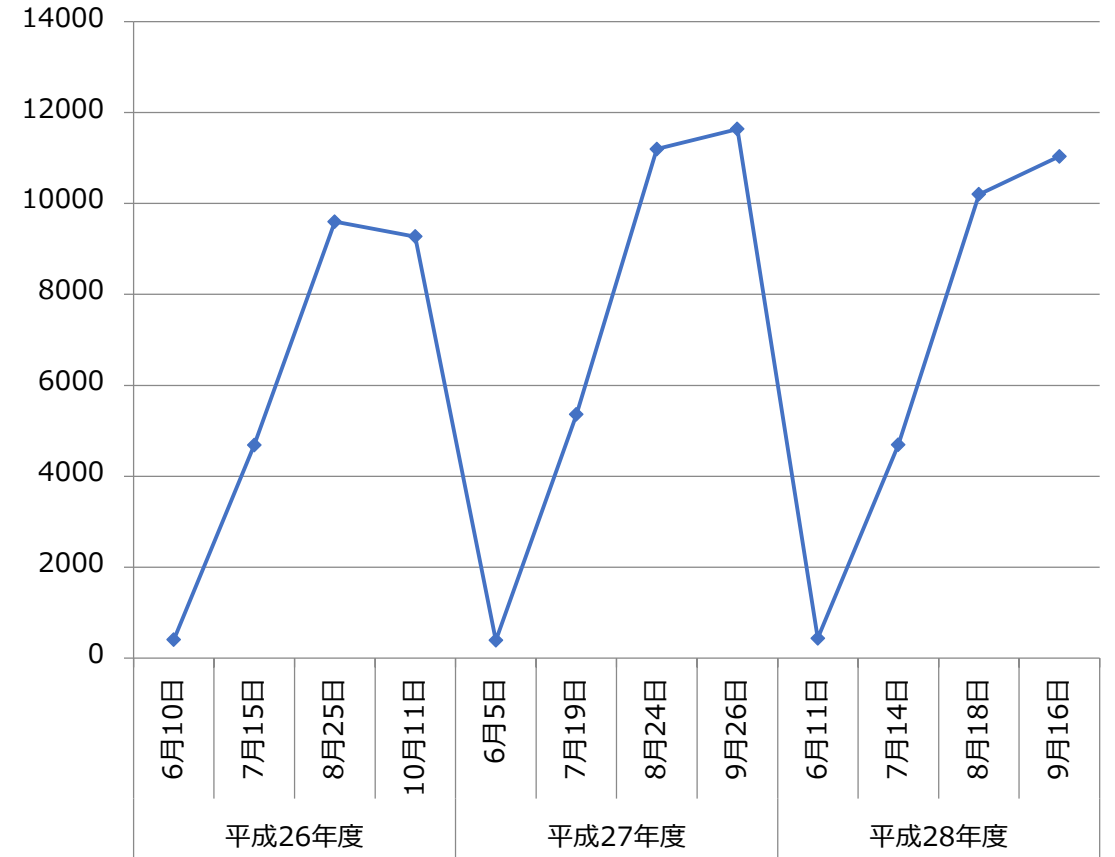
平均出現種数



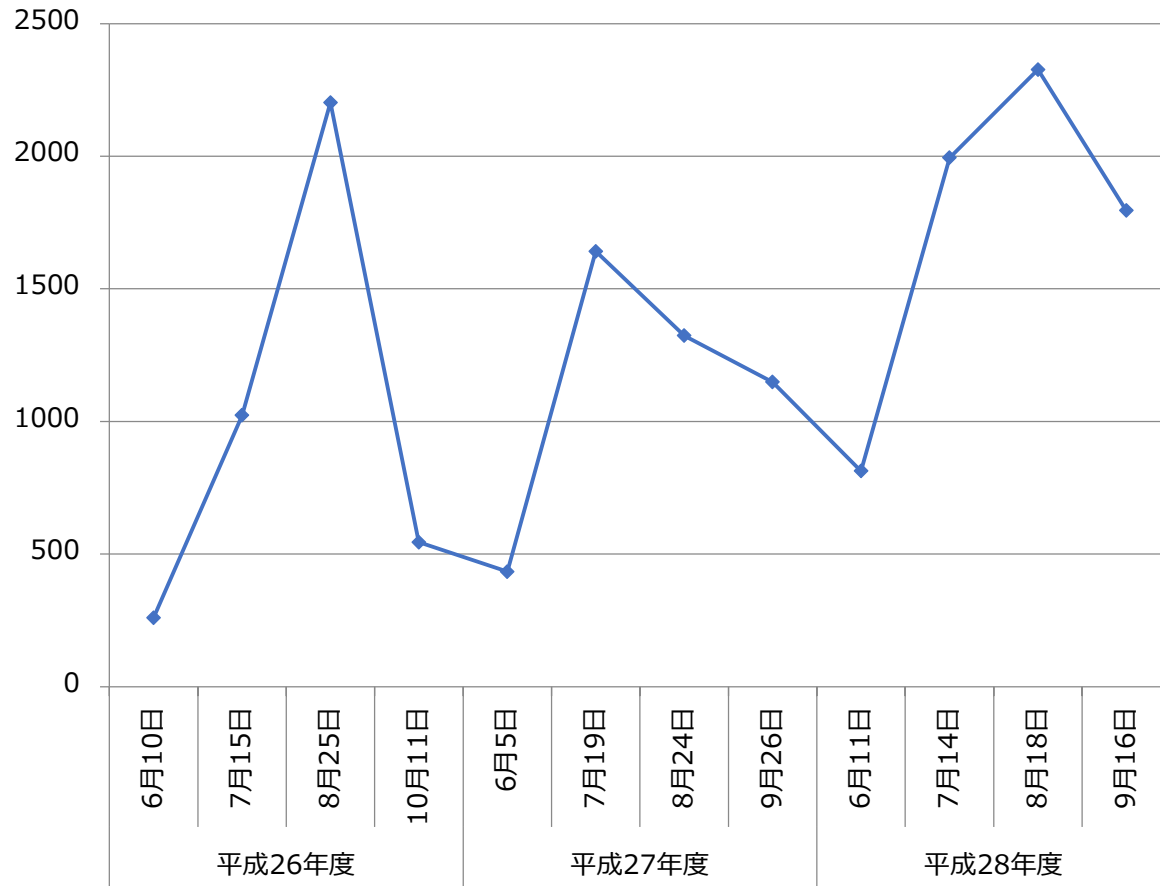
ススキの平均の高さ



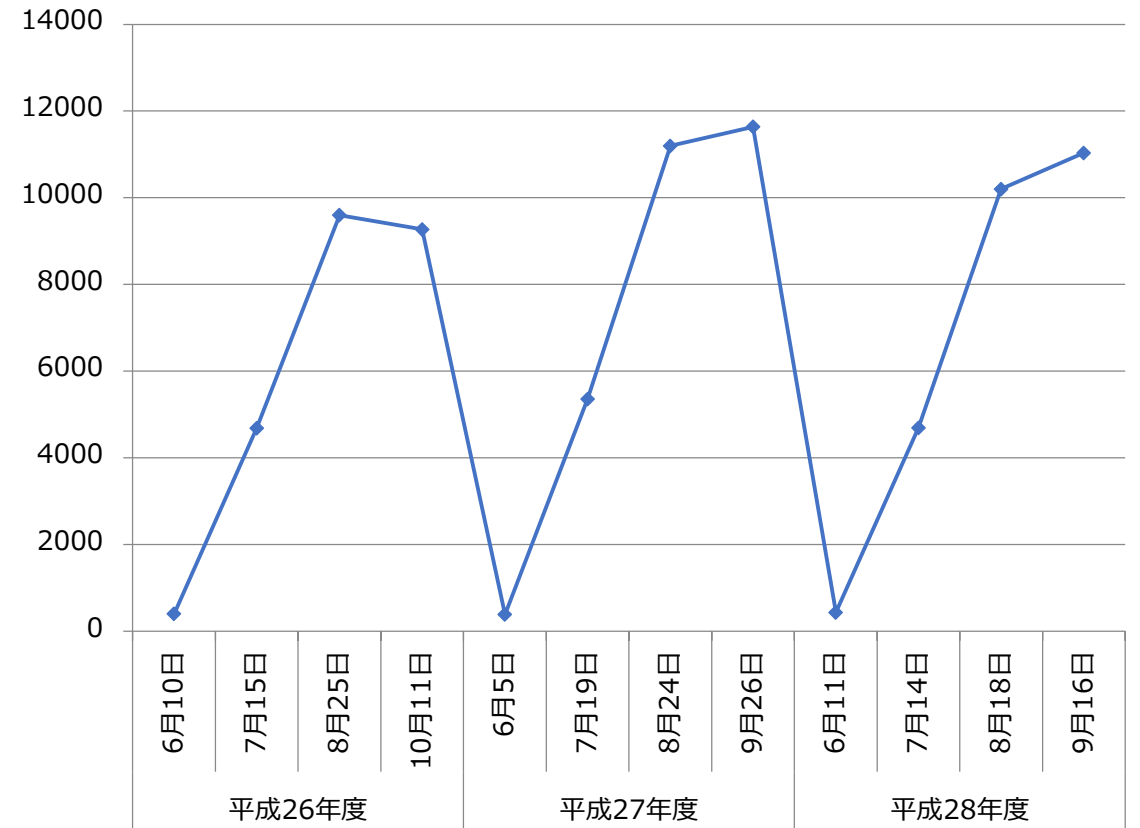
ススキの優先度MD



ススキ除く全種の優先度MD



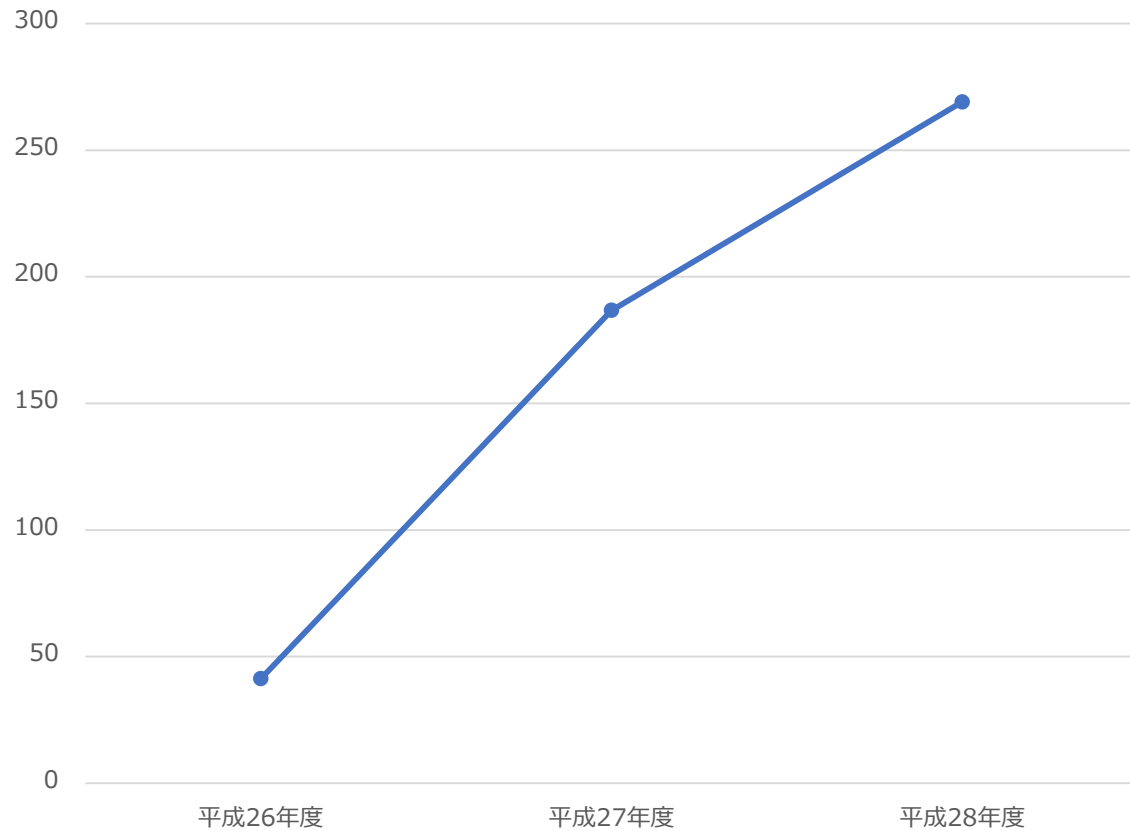
ススキの優先度MD



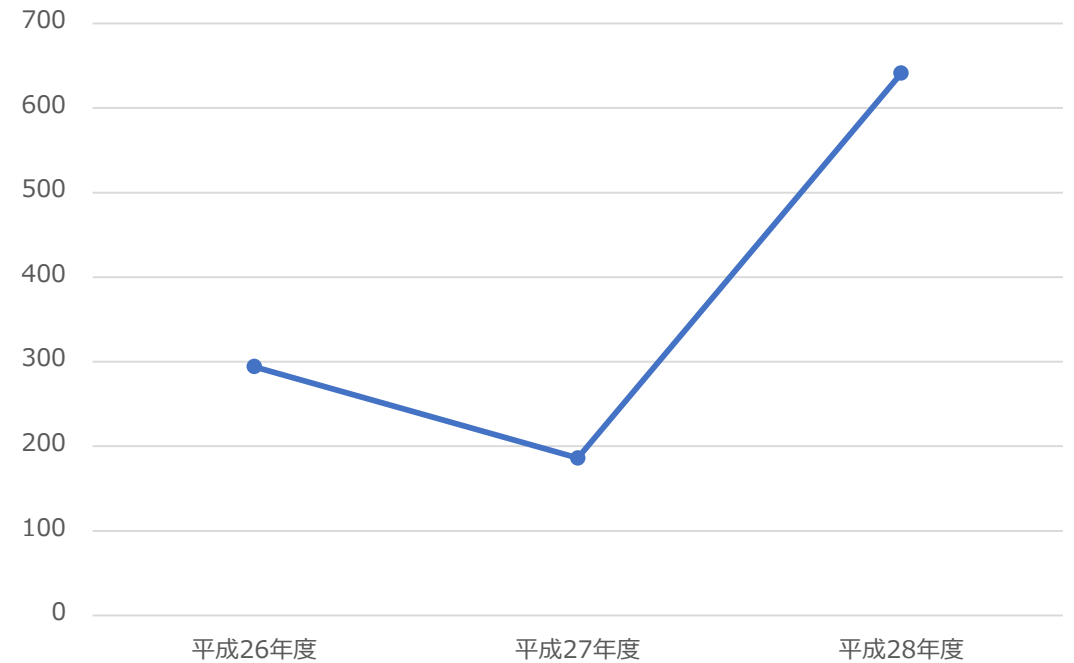
アキノキリンソウ8月の優占度

スズラン7月の優占度

MD平均値



MD平均値

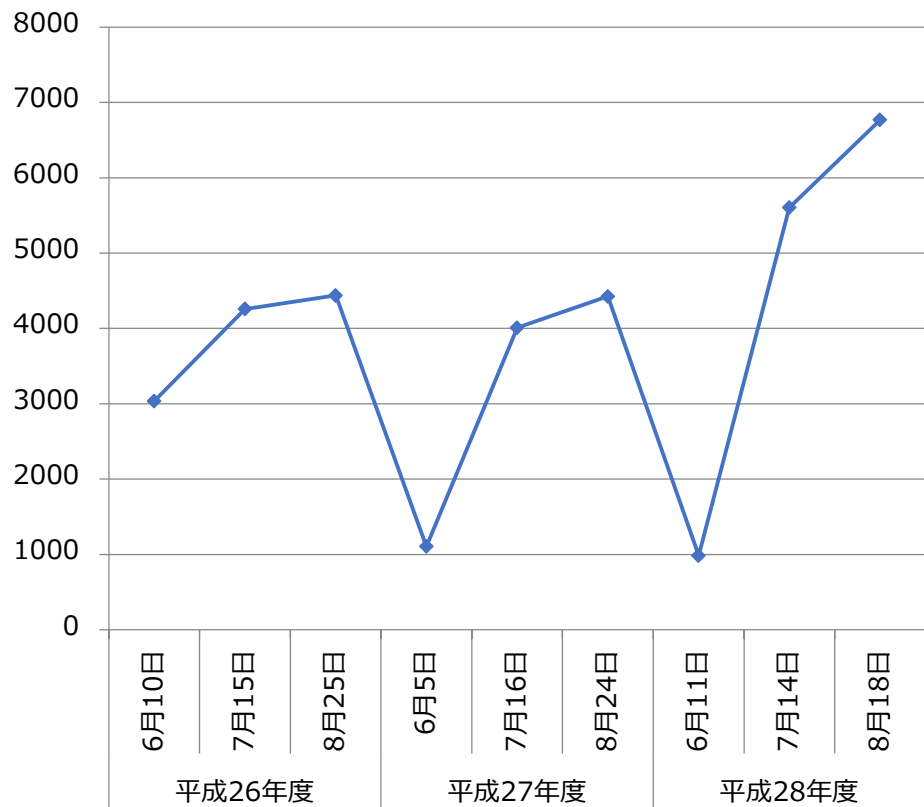


ススキ刈取り区定置枠のまとめ

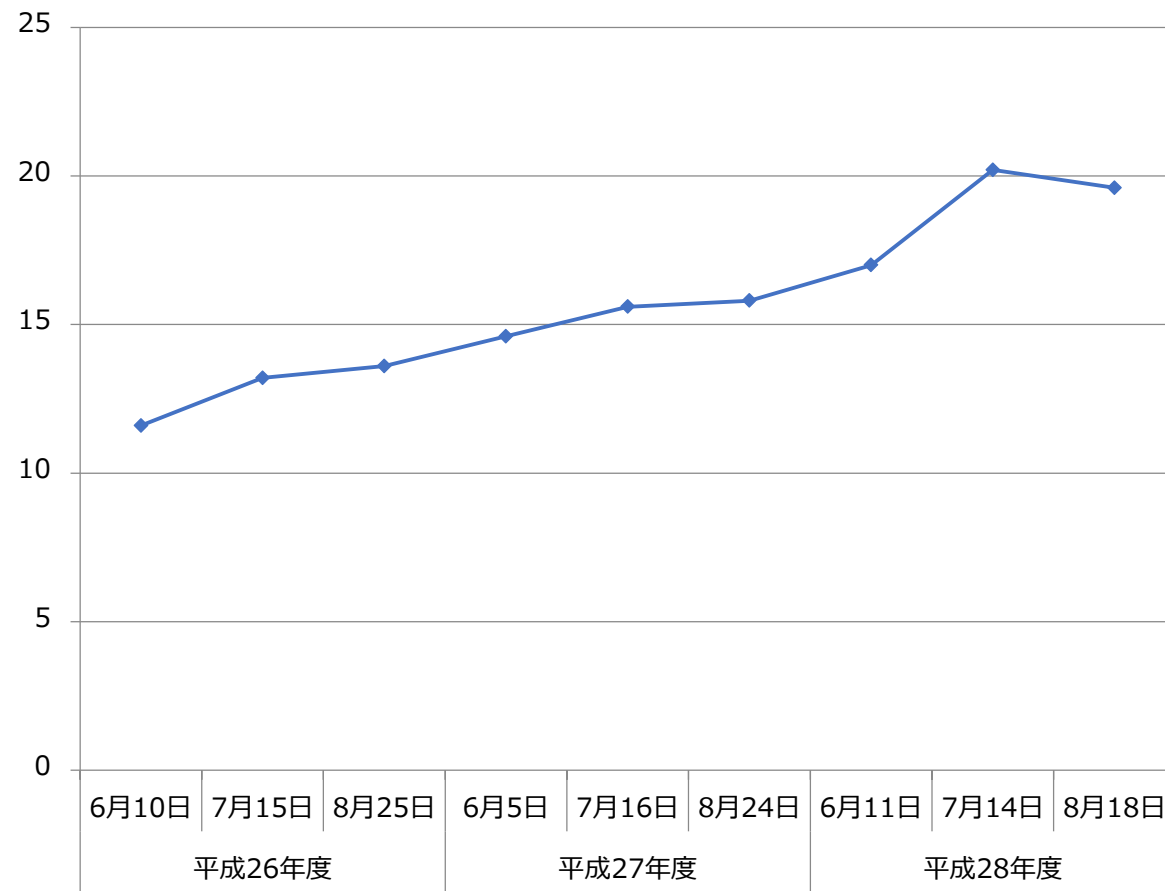
刈取り2回の効果

1. 各月出現種数が増加した。
2. ススキの優占度はあまり変化はなかったが、高さは減少した。
3. そのため空間が開いてススキ以外の種の優占度や種数が各月増加した。種の特性によって優占度の変化が異なる。
4. ススキの勢力をもっと衰えさせるために早い時期の刈取りも検討したい。

ササ定置枠の全種のMD合計

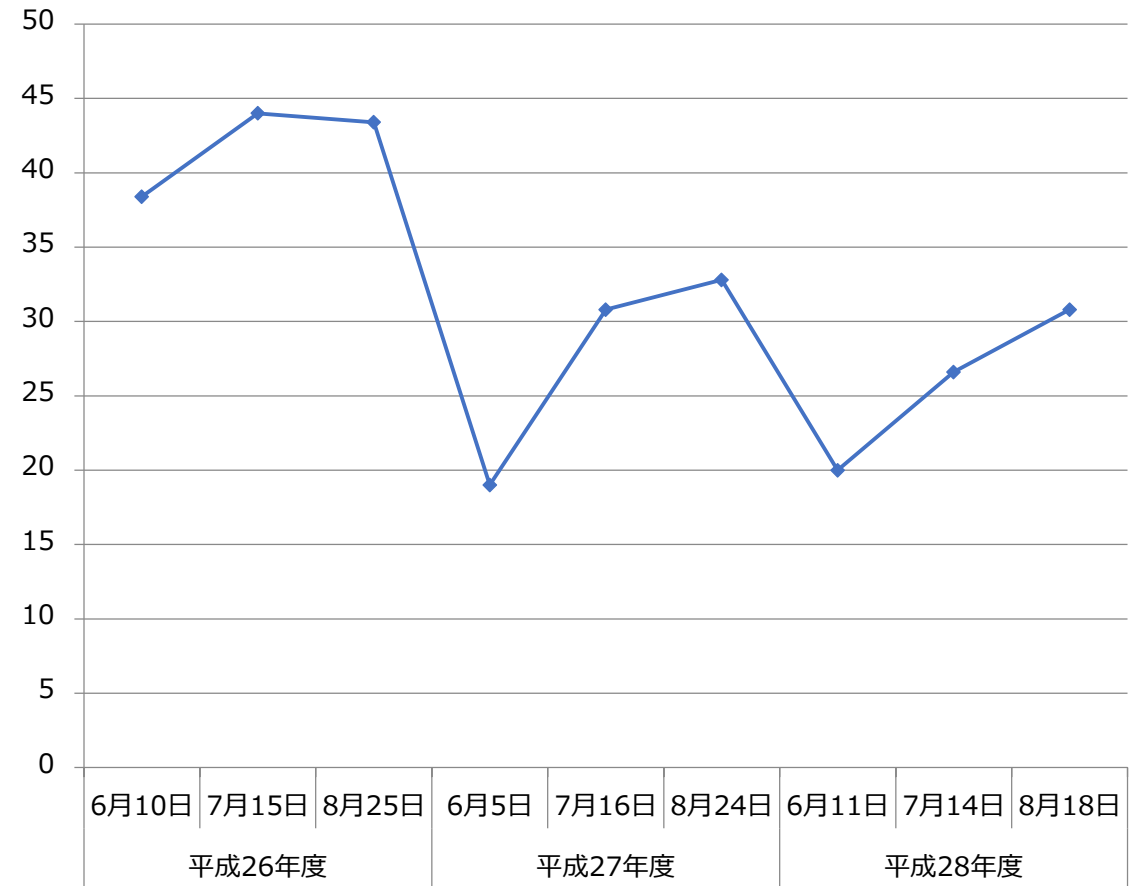
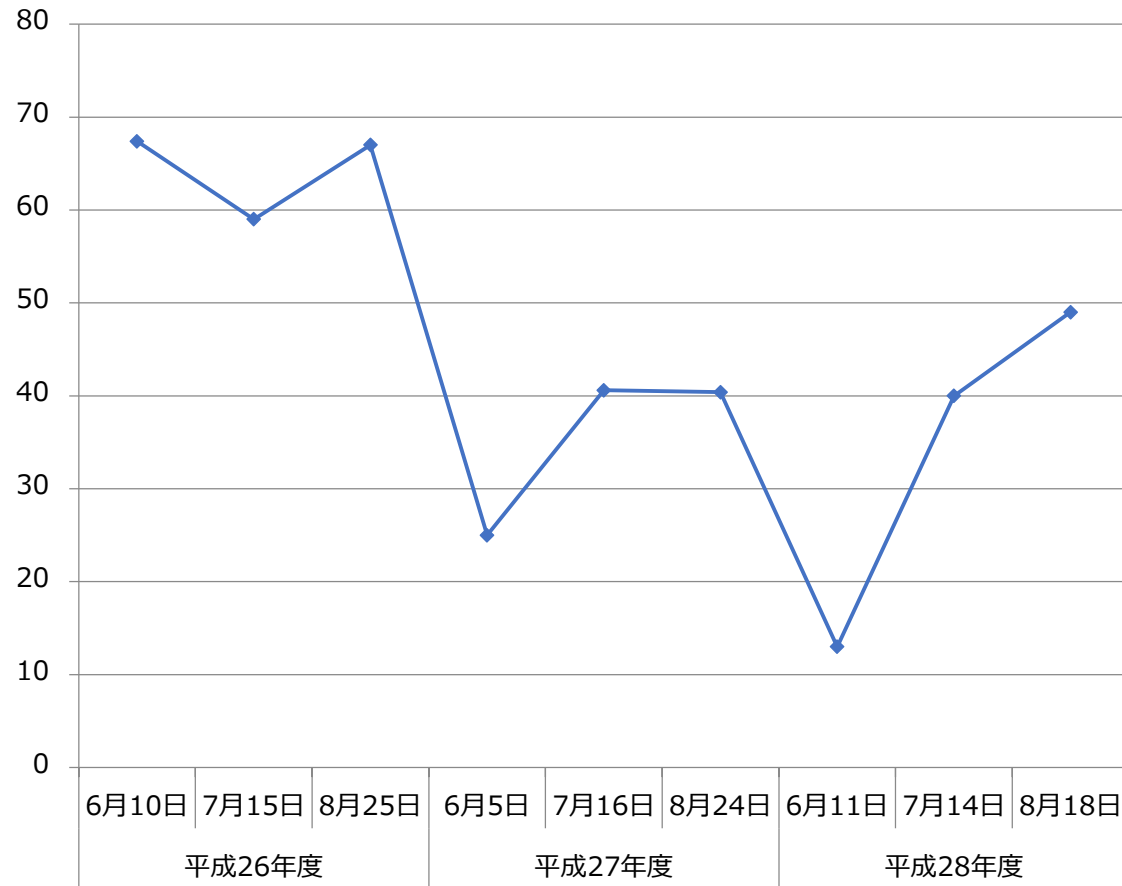


ササ定置枠の平均出現種数

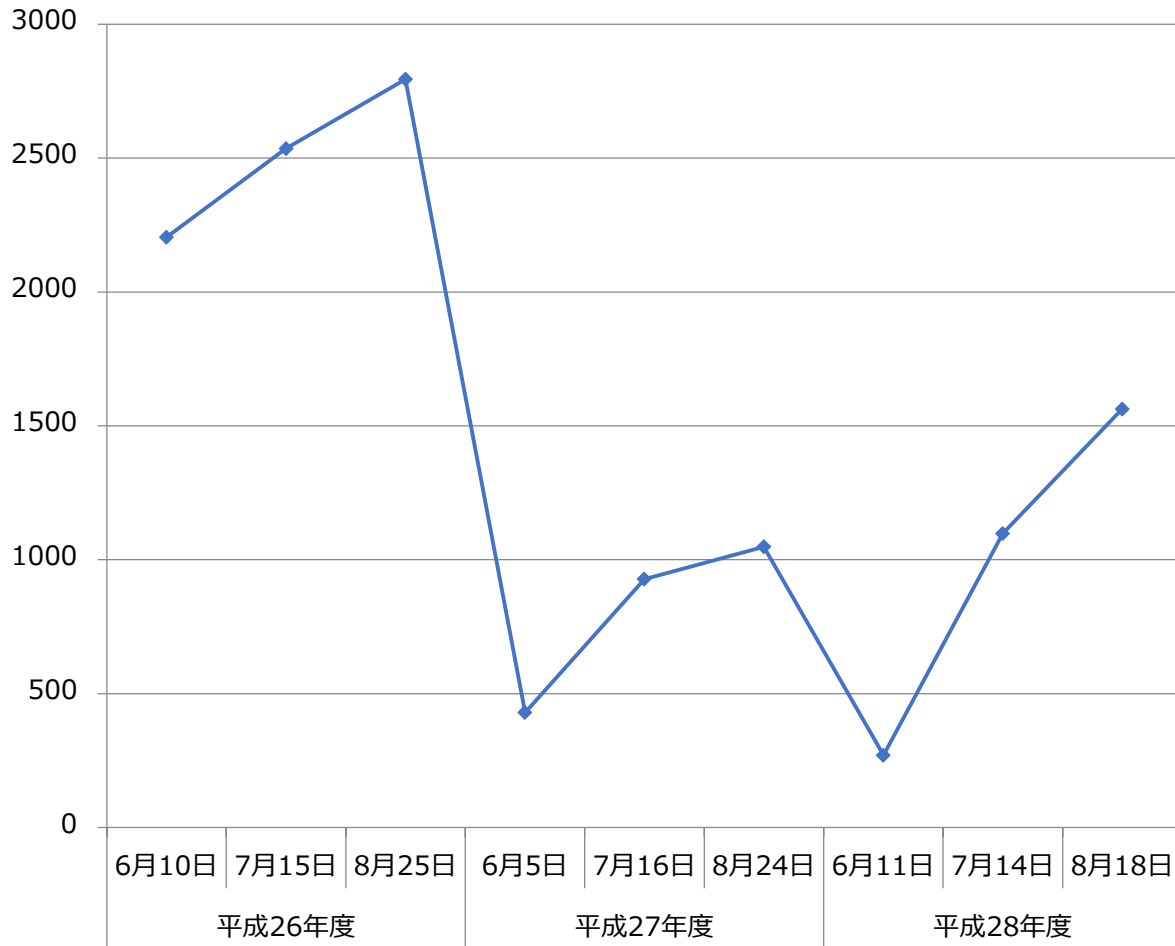


ニッコウザサの平均被度

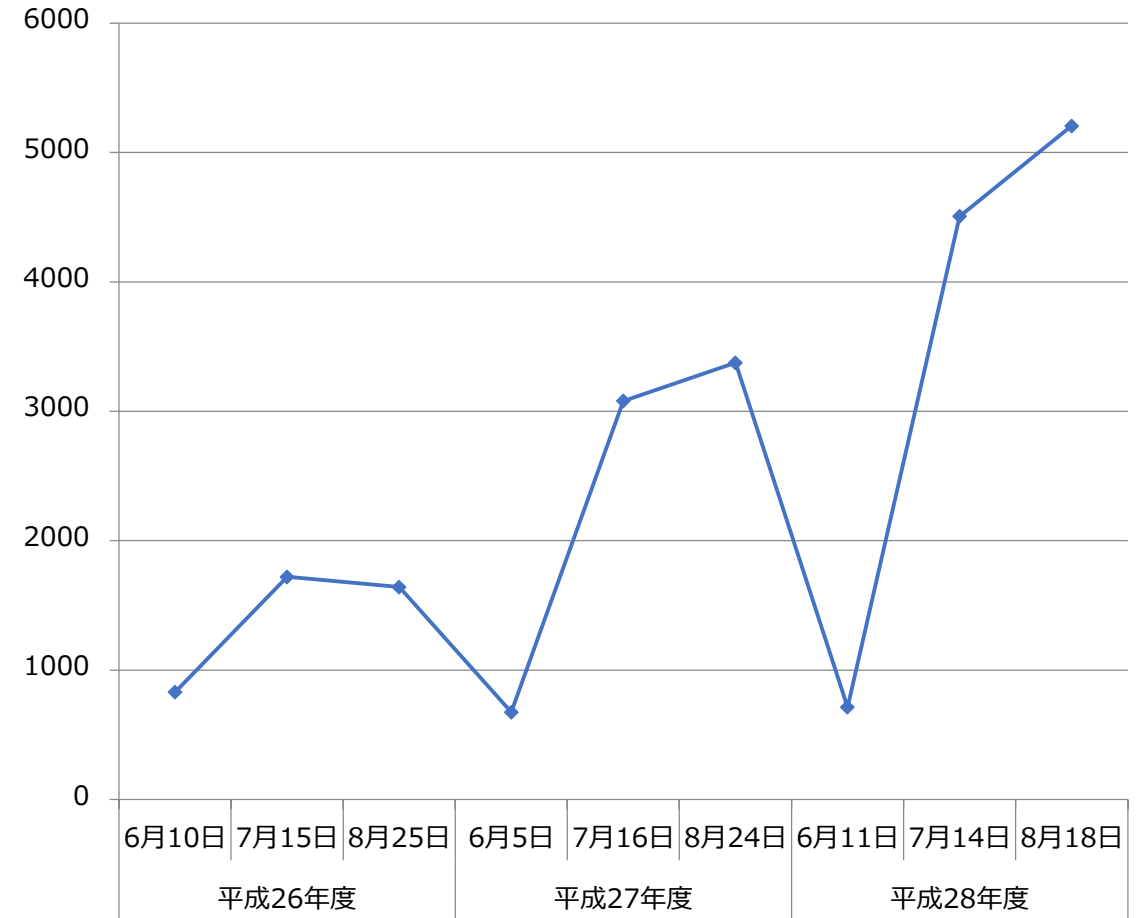
平均高さ



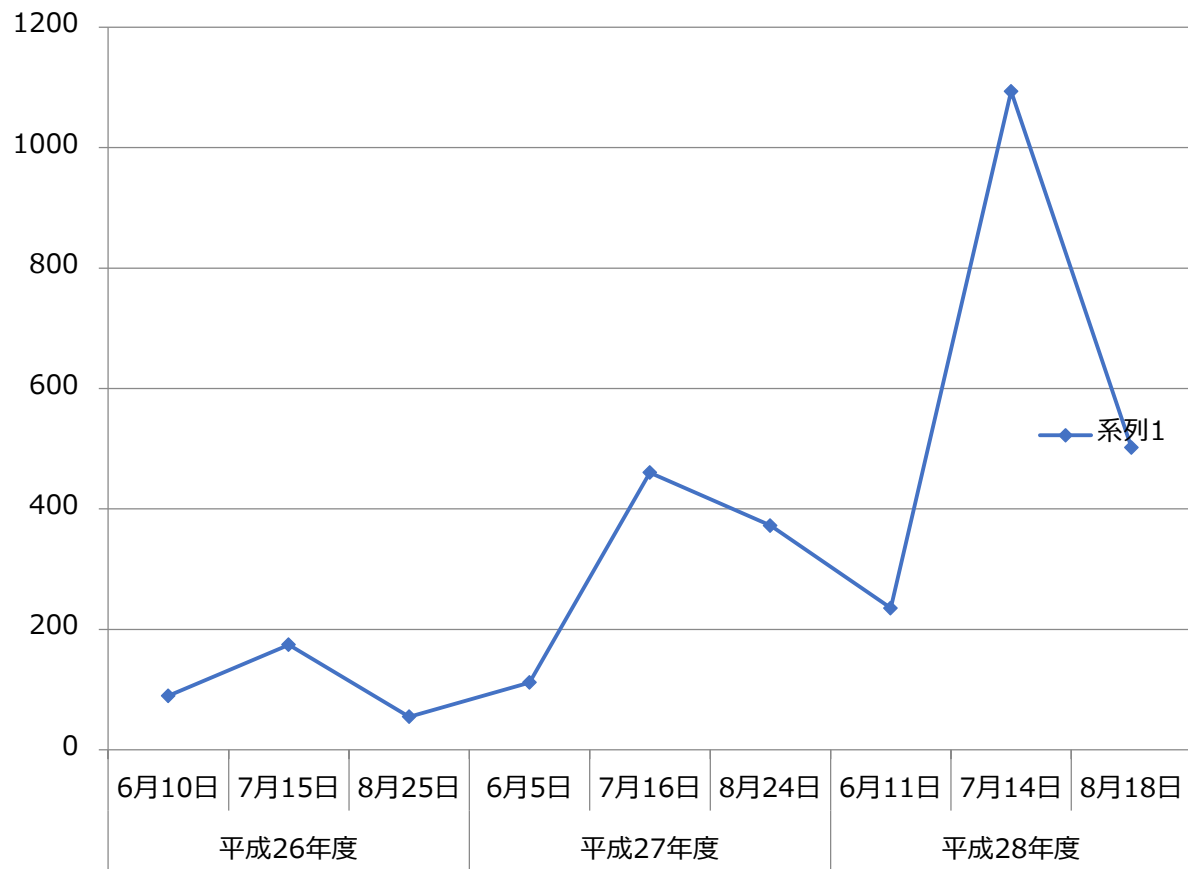
ササの平均MD



ササを除く全種のMD合計



ニッコウキスゲの平均MD MD



ハクサンフウロの8月の平均

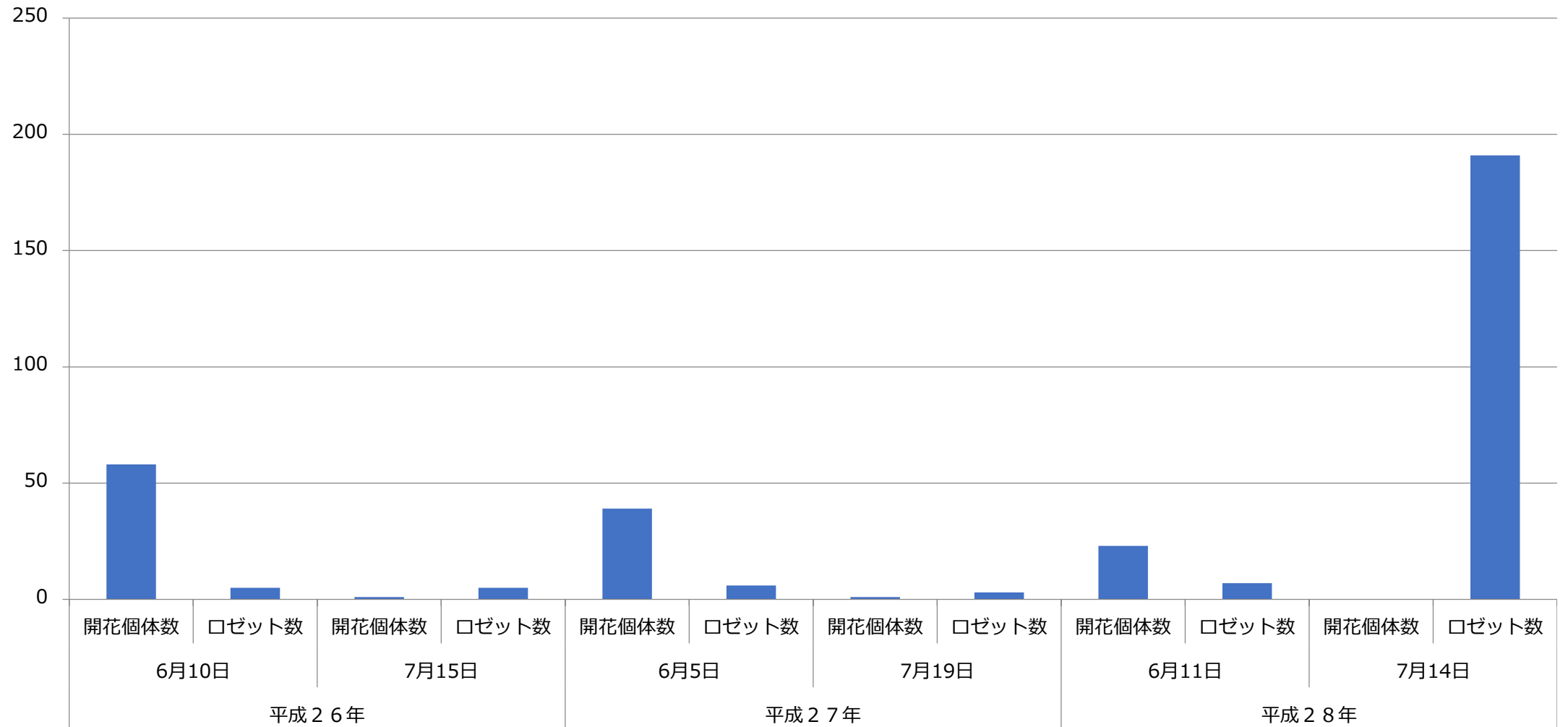


ササ刈取り定置枠のまとめ

刈取り2回の効果

1. 出現種数が増加し、また全体の優占度も増加した。
2. 初年度よりニッコウザサの優占度が大きく減少している。
3. 3年目は被度がやや増加したが、高さは減少した。
4. 注目種のニッコウキスゲの優占度や他種の優占度が増加した。
5. ササの優占度を減少させるためにもう少し早期の刈取りが検討される。

3ヶ年の6月、7月の個体数の消長



ハルザキヤマガラシの駆除実験のまとめ

2回剪定と引き抜き（ロゼット）の効果

1. 6月の開花個体数はかなり減少している。
2. 7月には開花個体数（抽苔個体を含む）は0となった。
3. ロゼット（芽生えを含む）は28年度の6月は少数であったが、7月に急増した。原因は不明である。
4. 開花個体の駆除により種子の生産を抑えて次世代の子孫を減少させていくことが期待される。